

して、生きている。人が手をかけるから、かえってうまくいかないんだ。」

木村は、それから、自分の畑の雑草をどんどん茂らせた。虫が住みつくのもそのままに。木村さんのリンゴ畑には、虫がいて蛇がいて、自然がそのまま。

そしたら、りんごに実がついた！

最初の年は小さな実が数えるほどでしたが、その味は格別！！

年を重ねるうちに注文が殺到するようになり、今では自宅のファックスがフル稼働状態で、市場に出る前に売り切れ。



木村秋則氏

④【当たり前が見えない】

木村さんのりんごは、おいしいだけでなくとても強い。

りんごを切って置くと、すぐに茶色に変色しますよね。

木村さんのりんごは長持ちし、そのままの色でゆっくりとしぼんでいく。

取材をした方は、木村さんのりんごを食べたとき、涙がこぼれたそうだ！

自然のままで、虫も蛇も、共存共栄したなかで育った作物が一番おいしく、強い。

当り前のことが、見えない、できなくなっていないませんか？？

(奇跡のリンゴ 幻冬舎刊より)

池田 創之



ENJOY!着物のコーナー

「七五三」と「紐落とし」

一、【はじめに】

昔は、幼児の生存率が悪く、三、五、七歳というのは、幼児が育つ上での節目とされていました。「七歳までは神の子」と言われたものでした。

節目を無事越えられたことを感謝し、長寿と幸福を祈るのが七五三の由来です。



和想館講演会より

二、【何歳で、なぜ祝うの？】

1、男の子は、三歳と五歳。女の子は、三歳と七歳 と一般的には言われております。

男の子の方が、七五三が早いのは、男の方が弱く命が不安定だったからだとか。

11月15日に行うのは、三代将軍家光が、後の五代将軍家綱(徳松)の健康を案じ、11月15日に行ったから。みながこれに倣うようになったそうです。